

各 位

2024 年 12 月 13 日

株式会社マツモト

## 「誰一人取り残されない学校作り」という社会課題に対する取り組み開始について

### ○要旨

創業 90 年以上、「卒業アルバム」印刷を主力とする株式会社マツモトは、事業モデルの構造改革を推進中であり、本年 7 月には株式会社 NTT Digital と基本合意書を締結し、「ブロックチェーン卒アル」の実証実験をまずは複数校と進めるべく交渉中であります。

そんな中、10 月からは学校法人立花学園立花高等学校（福岡市）に対して、生成 AI を活用した講義（全 15 回）を始めることとなりました。その講義からのご縁を通じて、更には同校齋藤真人校長からご指導をいただくことで、当社が長年「卒業アルバム」を提供してまいりました学校においては、重い課題に直面していることを知りました。そして、その現実を知るに連れ、当社として学校の課題解決に向けて何か貢献が出来ないかと、その思いが日に日に強くなりました。

そしてこの度、「誰一人取り残されない学校作り」を目指して、「不登校児童生徒の支援」及び「インクルーシブ教育推進」の二つをテーマとして、web3 テクノロジーやメタバースを活用しての社会課題解決に向けた取り組みを開始することをお知らせいたします。

### ○「不登校児童生徒の支援」

小中学校における不登校の児童生徒数は約 30 万人、10 年連続で増加中です。

立花高等学校は在校生の 8 割が不登校経験者、同校の自立支援の教育方針が全国の教育界で注目を集めております。

齋藤真人校長は、「これからの学校教育には何が必要か」に対して、「非常口」と「自己決定」の二つを挙げておられます。

「非常口」では、つらいことに歯を食いしばって耐えるだけではなく、つらくなったら寄りかかることが出来る依存先や逃げ場があること、そうした安心感を学校教育の中で作り、大事にしていくべき、としています。

事実、立花高等学校ではフリースクールも開設、自由闊達な学びのスタイルを発信したいとの齋藤校長の思いからありますが、当初考えていたセーフティーゾーン作り計画は、実際に運営してみると、やわらかい雰囲気の中で全体がコンフォートゾーン（快適な空間）になっていったとのことでした。

もう一つの「自己決定」では、「教師の号令一つで子供をコントロールするような既存の学校文化とは正反対の取り組みを通じ、子供の自己決定を大事にすることを意識しながら子供と向き合っていかなければならない」とした上で、子供が自分で考え、自分で判断するという自己決定について学び、経験する機会を与えることの必要性を説いています。

この立花高等学校との貴重なご縁を機に、「学校がコンフォートゾーンになり、広げていくこと」や、「子供が自分で考え、自分で判断していくという自己決定の場」をメタバース空間上でも展開出来ないかと、そういう構想に着手をいたしました。

### ○「インクルーシブ教育推進」

文科省の令和5年度学校基本調査によると、小中学校の児童生徒数は過去最少になった一方で、「特別支援学校」の児童生徒数は15万人を超えて過去最多、また、「特別支援学級」に在籍する児童生徒の数は約37万人になり、10年前より倍増しています。

この特別支援学校や特別支援学級のような、通常の学校・学級とは別の場所に障害のある児童生徒を分ける教育は、「分離教育」と呼ばれてきました。

これに対して、障害のある子もない子も、全ての子供が同じ教室で一緒に学ぶことが出来る教育システムを構築することを「インクルーシブ教育」と定義し、「障害者の権利に関する条約」ではこの推進を求めています。

立花高等学校の齋藤校長は、このインクルーシブ教育につき、「特定の子供達への配慮」という狭いスポットライトの当て方ではなく、もっと大義的な広いものであるべきではないか、その子供の”らしさ”が生きる空間を作る、一人ひとりの個性を打ち消さないことがインクルーシブ教育の礎として、先生にとっても生徒にとっても、空間全体が、皆が安心できるコンフォートゾーンでありたいとの意識を持っておられます。

個々のニーズに合った学びや支援があり、あらゆる「ちがひ」がある子供が同じ教室にて「皆と一緒に学べる」というインクルーシブ教育を、日本で進めていく必要性につき当社も強く共感、「不登校児童生徒の支援」同様、テクノロジーを活用しての貢献に務めてまいりたく決意をいたしました。

### ○今後の展開について

当社は全国約 7,000 校の「卒業アルバム」印刷に携わり、年間約 60 万人の卒業生に対して心を込めて提供をしてまいりました。

時代の変化に対応し、2023 年からは web3 事業を開始、今年は「ブロックチェーン卒アル」事業の展開を始め、主力事業の転換を通じて web3 社会実装に本気で向き合っております。そんな中、不登校生徒の自立支援において教育界では知らぬ者はいない、立花高等学校とのご縁をいただくことで、学校が抱える重い課題につき、直視する機会をいただきました。また、上記の通り、不登校児童生徒の増加等、日本の将来を担う若者を取り巻く環境はより一層厳しくなっており、ここについて当社が持ち合わせている技術を生かしながら新しい形の教育形態に、行政、教育機関と共に取り組んでいければと考えております。

現状、学校教育と web3、メタバースなどの新しい技術はかけ離れたところに存在しているように見えます。一方では、子供たちは多くの時間ゲームにふれあい、大人よりも最新のハイテク技術に対して興味津々に向き合っているように見えます。子供たちにとって遊びの延長上に勉強があり、勉強の中に遊びを見つける、このような形を当社として提供できるのではないかと考えています。

改めて当社は、学校の課題解決に向けて、web3 テクノロジーやメタバースを活用して真剣に取り組みます。

今後の事業の詳細が決まりましたら速やかに告知させていただきます。

#### ■ 本件に関する問い合わせ先

株式会社マツモト 取締役管理本部長 徳永 和敏

(TEL. 093-371-0298)